

質問です!

どうすれば 国語科の授業で 「考える力」が 高まりますか?

前号で、東京学芸大学の中村和弘先生にお話しいただいた
国語で考えをもつ・考えを深めるとは何か?に

「国語はあらゆる教科の要。国語で、言葉で考えさせたい!」
「どうやったら国語科の授業で考えさせることができますか?」

といった共感の声と、ご質問が多数届きました。

今回は「考える力」を高める国語科の授業づくりをテーマに
中村先生と東京学芸大学附属小金井小学校の大塚健太郎先生に
語り合っていました。

「読むこと」を中心に話が弾んだお二人の対談を紹介します。



東京学芸大学 准教授
中村 和弘 (なかむら かずひろ)

愛知県生まれ。川崎市内の公立小学校教諭、東京学芸大学附属
世田谷小学校教諭を経て、現職。専門は国語科教育学。中央教
育審議会「国語ワーキンググループ」委員、同「言語能力の向上に
関する特別チーム」委員、学習指導要領等の改善に係る検討に
必要な専門的作業等協力者(小学校国語)として学習指導要領
の改訂に携わる。

国語科でもっと 子どもに考えさせたい!

中村 前号で、授業中に子どもたち
のもつ「考えるエンジン」を有効に生
かしたい、もっと考えさせる工夫をし
たい、とお話ししました。

タイトルにあるご質問も、国語科
で、言葉で考えさせることの重要性を
痛感されているからこそだと思いま
す。「教えることはしっかり教えつつ、
子どもの頭をフル回転させる授業はど
うやってつくれるか」というジレ
ンマがあるのだと思います。

大塚 どうしても教える側に幅がな
いと、「これはこう読まなければいけ
ない」と思って授業をしてしまいがち
ですが、そうすると、子どもが「先生
の正解を探しに行く授業」になってし
まう。これでは本当の意味で考えたこ
とにはなりません。自分事の課題とし
て向き合い、言語活動を通して考えが
更新されたとき、この考えに至るまで
の一連の過程を、本当に考えたと言っ
てよいでしょう。

中村 「こう読まなければいけない」
「正解を探しに行く授業」と言われまし
たが、読むことの価値って何でしょう。

大塚 読むことは、言葉を介してだか
ら、どうしてもその言葉に対してのイ
メージをもっている子ともっていない
子の差が大きい。たとえば一つの単語
「美しい」でも、「美しい絵があります」
と言ってしまえば、なんだか伝えたよ
うな気になるけれど、その「美しさ」
には、みんなちがう思いをもっている
ということに気づかせることで、物語
を読む面白さがわかってくるのではな
いかなと思います。

中村 本当にそうですね。

大塚 物語を読むことの価値は、同
じテキストからその子に応じて解釈に
ズレが生じる、そのズレがなぜ生まれ
たのかを尊重していくと、言葉の幅が
認められるようになることです。言葉
には正確性とあいまいさがあり、その
あいまいさは互いの想像でしか補えな
いので、物語を読んでその力を身につ
けていくこととなります。

物語にしても説明文にしても、教室
の中で共に読み合い「僕はこっこの側
で考えている」「私はこっこの立場で
考えている」というズレを感じられる
か。教室の中で生じるズレを「どうし
てズレたんだろう」「このズレはどうい
うことなんだろう」と楽しんで考える

というか、「考えるに値する」と思えるかどうか。ブレの面白さを共有できる教室であることが必要だと思います。

「読む力」×「考える力」
＝「深い学び」

中村 なぜ教室で何時間もかけて読むのか。なぜ友達と一緒に読み合うのか。まず、そうした根元のことを大切にしたいですね。

指導事項の「共有」に「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと」「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること」とあります。「読むこと」と「考えること」をかけ合わせることで、「深い



東京学芸大学附属小金井小学校 教諭
大塚 健太郎 (おおつか けんたろう)

兵庫県生まれ。横浜市内の公立小学校教諭、東京学芸大学附属小金井小学校、世田谷小学校教諭を経て、現職。国語授業づくり研究会代表。学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者(小学校国語)。

学び」が生まれることに期待します。

大塚 「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組んでいくためにも、中村先生のおっしゃるように、子どもの「考えるエンジン」をフル稼働させるような国語科の授業をつくりたい。それは、「子どもがどこかにある「正解」を求めるのではなく、自分の内に生まれる「納得解」を求める授業をつくること。授業をきれいに流すのではなく、子どもと共に立ち止まったり、躓^{つまず}いて戻ったりすることで、「深い学び」が実現されていくと思います。

中村 ベテランの先生方は、子どもの思考に合わせ、行きつ戻りつする授業をされています。試行錯誤する、選択する、判断するということをさせながら、学習に対して見通しがもてたり、振り返りができたりするように指導を工夫します。小学生のうち、学ぶ内容だけでなく、その学び方でも考えることを身につけておくと、中学校・高等学校にもつながるのではないかな、と思います。



B5判 136 ページ(2色) 定価: 本体 2,000 円+税

2019年
2月刊

「考える力」を高める
国語科の授業づくりが
本になりました。

中村先生と大塚先生をはじめ東京学芸大学附属小の先生方が「考える」国語科の授業を提案。小学校全学年の実践を写真満載でわかりやすく紹介しています。



B5判 128 ページ(2色)
定価: 本体 2,000 円+税

こちらもおススメ!

学級担任だからこそ無理なくできる国語発の教科横断的授業。必要感をもって実践に生かせるカリキュラム・マネージメント入門&実践書!